

飛翔

高齢社会生活向上
協同組合会報誌

For a bright future

海外人材特集

"Incredible India"

信じられない？

IT以外のインド人材を知ろう

インド=IT人材だけじゃない

インドと聞くと日本人は「カレー」や「ターバン」「数学」などのステレオタイプしか思い浮かべられない方が多いのではないだろうか。

実態は13億を超える人口を抱える巨大国家。人材輸出を見据え、教育システムの整った素晴らしい人材の宝庫だった。今回のインド訪問から人材の実態をレポートする。



人の外見も、宗教も北と南で全く違う。
アメリカを超える人種のるつぼ。大きな国土と多くの民族。

「ターバンの人」は全体の●%

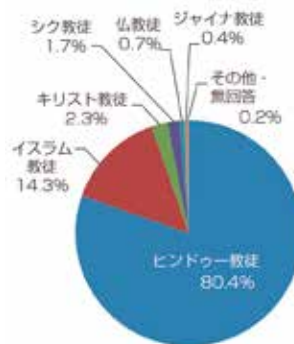
インドには「15マイルごとに方言が変わり、25マイルごとにカレーの味が変わる。100マイル行けば言葉が変わる。」ということわざがあるほど、多様な言語や民族が存在しています。公用語として定められているのはヒンディー語ですが、22の指定言語が憲法で定められているほど多様性に満ちています。(インド全域では約2,000 (!!)もの方言があるといわれている)その為、インド通貨であるルピー札には17の言語の記載があるほど。

このように、国内であっても異なる地方の出身者が会話をする必要があるため、都市部では英語も「第二母国語」と言えるほどに広く普及しており、近年ではIT分野を中心に、先進国の大企業に勤める人材が急増しています。

宗教も言語や民族と同じく多様性に満ちています。多数派であるヒンドゥー教をはじめ、イスラム教、キリスト教、シク教、仏教、ジャイナ教と多くの宗教が根付いています。多数派のヒンドゥー教がすべての主導権を握っているかといえばそうではありません。

少数派ながらジャイナ教はインド経済に影響を持つなど、人口だけでは判断できない側面を持っています。

日本人のインド人のステレオタイプである「ターバンの人」はシク教徒と呼ばれており、日本でのインド人のイメージを形作っているが、人口比ではたった1.7%しかいない。いかに我々がインドという国を理解出来ていないのかがはっきりとする数字だ。



出所：2011年国勢調査



旧来のインドのイメージ
ヒンドゥーの聖地
「ヴァーラーナシー」



日本人の考える
インド人のイメージ

インド共和国 (英語: Republic of India)
面積 : 328万7,469km²
人口 : 12億1,057万人
首都 : ニューデリー (New Delhi)
民族 : インド・アーリヤ族、ドラビダ族、モンゴロイド族等
主要産業 : 農業、工業、鉱業、IT産業
名目GDP : 2兆2,635億ドル (2016年) 1人当たりGDP: 1,709ドル (2016年)
GDP成長率 : 7.1% (2016年)

外務省ホームページより抜粋
※外務省データは2011年

「インド最大の経済都市
ムンバイ」



広大なインドは街の顔も様々

NDIM [ニューデリー経営大学] (New Delhi Institute of Management)



“経営大学”と銘打っているが、下部組織に職業訓練校や日本語学校を持つ、総合人材送り出し機関。日本向けにはナガランド州政府と太いパイプを持ち、今回の当協同組合とナガランド州政府との提携に大きな役割を担っています。



NDIM—当組合合同のナガランド州政府向けプレゼンの様子



たくさんの聴講者が来場されました。



一緒に記念撮影も。

大英帝国とナガランド

ナガランドに住む「ナガ族」は山岳地でインド内陸部とは隔絶された環境にあり、民族的にはミャンマーと近い関係性があります。それもそのはず、今のパキスタンからミャンマーに至るまでの広大な土地を「イギリス領インド帝国」として大英帝国の植民地としてきた為元々は“同じ国”でした。

大英帝国が撤退する際、パキスタン・バングラディシュ・ビルマ（現ミャンマー）が分離独立。その際、ナガ族の住む山岳地域で分割されることとなった。

山岳地であるが故に文化的にも隔絶しており、今なお個性的な文化風習が残る地域です。



インド共和国提携

送出し機関紹介

インド政府が株式の49%を所有する政府系非営利の統括組織

N・S・D・C (National Skill Development Corporation)



インドの技能実習制度は政府系組織であるNSDC (National Skill Development Corporation) [国家技能開発法人]が統括組織です。
私たち高齢社会生活向上協同組合はNSDCと連携し、各地域の送出し機関と提携しています。



IL & FS Skills



インド最大の職業技能訓練企業。世界各国に7千万名の人材派遣実績を持つ。

職業技能訓練校としても160万名の卒業生を数え、各業種（機械・金属、建築・建設、食品製造、繊維）2,000名以上のプロフェッショナルトレーナーを抱えています。



日本のオリックス・コーポレーション・ジャパンが株主の一つで日本との結びつきが強く、文化的に理解度が高いことも特徴。

160万名
卒業生

24州300校
職業技能訓練校

2000名以上
職業認定トレーナー

膨大な数の労働者情報のプールを持ち、採用条件にあった候補者を効率的に探せるデータベースを持つ

インドには各州の格差が存在する—— インドは“逆三角形”ではない!北東州の実情。

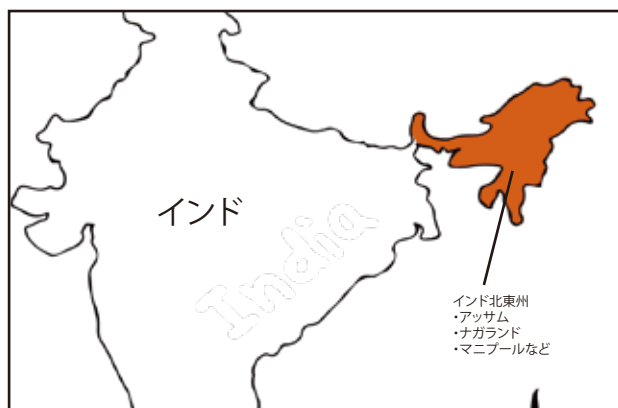
インド経済と人口ボーナス

人口国連経済社会局 (DESA) が2017年に発表した報告書によると、2017年時点のインドの人口は、13億3900万人と推計され、これは全世界人口の18%に相当します。もう一つの人口大国中国は14億1000万人 (同19%) ですが、インドの人口は2024年に14億4000万人に達すると推測され、中国を追い抜き世界首位になると見込まれています。

2050年のインドの人口は16億6000万人とされ、今後の経済発展や消費市場の観点から見て、人口の多さに加え、若年層の人口比率が高いこともインドが非常に有望な市場と考えられています。

インドは総人口に占める15-64歳までの生産年齢比率が上昇し続ける「人口ボーナス」の恩恵を、2045年ごろまで受けるとみられています。

しかし、インドは多くの民族・宗教・言語で構成する集合体です。各都市平均的な成長を遂げているわけではなく、首都であるニューデリー周辺や、IT目覚ましい南部の都市バンガロールなど以外では格差が広がっています。



北東州ご存知ですか？

インドの逆三角形▼から外れた北東州。地理的・民族的にインドの発展から取り残されている傾向があります。日本に馴染むモンゴロイド系 (インド-モンゴロイド) が多く、親しみが持てる方々が住んでいる地域です。

しかし、北東州では産業が育っておらず、貧困州に数えられます。今回、北東州のひとつ「ナガランド州」の行政府の方とお会いしお話を聞きました。

ナガランド州は格段に貧しいため、7000名を超える若者の職を用意出来ておりません。

日本企業との協業により、win-winの関係を築けることを確信しております。



ナガランド政府No.2
Chief secretary
Toy氏

7000名の若者が働いていない——。
日本と違い、仕事をクビになったわけではなく、そもそも首都圏・産業圏から遠く、働き口が無い。つまり
働くチャンスすら無いため、優秀な人材ですら職にあぶれている状況です。
日本との親和性が高い新たな人材供給先として検討してみてもは。



ナガランド州「ナガ族」の方々。
雰囲気、見た目は日本人に近いモンゴロイド (インドーモンゴロイド)



編集後記

インドには可能性があります。社会的要因としての人口増/生産年齢人口の増加。
この人材を海外へ送り出すための教育体制など国を挙げての体制が整いつつあります。
また、今回伺った「ナガランド州」は産業が少なく、学びたくても学べない優秀な人材埋もれている可能性があります。私たちはナガランド州政府とともに、奨学金制度等を用いてナガランド州・ひいてはインド、そして日本へ貢献できるよう、更に努力をまいります。



理事 村田

高齢社会生活向上協同組合



高齢社会生活向上協同組合

技能実習生と共同購入で中小企業の課題を解決

発行：高齢社会生活向上協同組合

編集：高齢社会生活向上協同組合 事務局

電話：(03) 6721-9910

URL：kumiai-ginou.com